1ST
CELEBRATE HANUKKAH

「ブライダル・パラダイム」(6)

2022.12.25 (夜)

「ハヌッカーの祭り」の大切な視点

1. 「スッコート」と「ハヌッカー」は、二つで一つであること
2. キリストの花嫁は、ストイケイアから完全に脱却すること
3. 花嫁の献身は、神への「芳しい香り」であること
4. 神のご計画の全貌を意識しながら歩む、きわめて夢のある未来的志向をもった祭りであること

1.「栄光の教会」＝「栄光の花嫁」①

●「ブライダル・パラダイム」の最終地点は、花婿なるキリストが「栄光の教会」としての花嫁をご自分の前に立たせることです。ちなみに「栄光の教会」という語彙は、以下の箇所にのみ登場します。

【新改訳2017】エペソ人への手紙5章25～27節

25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、
あなたがたも妻を愛しなさい。
26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよ
めて聖なるものとするためであり、
27 ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、
傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

●夫と妻への教えが、キリストと教会(花婿と花嫁)のかかわりが実現された状態を起点として、そこからなされています。

1.「栄光の教会」＝「栄光の花嫁」②

●花嫁である私たち(今日の教会)が「しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖く傷のないもの」とはとても思えません。そう言えるような状態でないことは、だれでも感じているところです。教会には多くのしみがあり、しわがあり、傷があります。ところが、主はそのような教会を養い育てて、また整えて、やがては、ご自分の前に栄光の教会として立たせてくださるのです。なぜならそれが神の永遠のご計画だからです。花婿が花嫁を「ご自分の前に立たせてくださる」のです。これは花婿の恵みであり、それを携挙によって実現してくださるのです。

●実現に至らせてくださるのは花婿です。ですから、私たちは目先にある現実を見るのではなく、神のご計画の最終目的を常に、絶えず視野に入れることが重要なのです。このことが「ブライダル・パラダイム」の必要性の所以です。

1.「栄光の教会」＝「栄光の花嫁」③

●雅歌には、花嫁の美しさがたたえられています。しかしその美しさは、あくまでも花婿の反映によるものです。花嫁の美しさは内から出てくる花婿の美しさでなければならないのです。花嫁が口づけを願うのはそのためです(雅1:2)。「口づけ」とは、神のことばとの直接的なふれあいですから、それによって花婿の心と真意を知り、一体となることができるためです。

●花嫁の願いを換言するなら、「みことばにより、水の洗いをもって、きよめられ、聖なるものとされること」であり、「しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなること」です。そうなるための最後の手段は、花婿が迎えに来てくださることです。やがて携挙され栄光のからだが与えられることで、このことが最終的に実現されるのです。しかしそのときまで、花婿も花嫁を絶えず養い育て、整え続けてくださっているのです。

1.「栄光の教会」＝「栄光の花嫁」④

●雅歌8章10節に花嫁のことば「私は城壁、私の乳房はやぐらのよう。そのために、私はあの方の目には平安をもたらす者のようになりました」があります。「私は城壁」(「アニー・ホーマー」אֲנִי חוֹמָה)という表現は、この世のものに目を奪われることなく、花婿に対する純粋な心を持って花婿を十分に満足させるほどに成熟していることを語っているのです。言わば、花婿の助けによって、花嫁の内面が愛のうるわしさで満ちていることを意味しているのです。この花嫁の成熟と携挙は無関係なのでしょうか。花婿の整えと関係がないのでしょうか。

●やがて花婿による「携挙」が待っているのです。このときにこそ、空中において「婚礼」(婚姻)がなされるのです。そのことを花嫁は「来てください」と待っているのです。

1.「栄光の教会」＝「栄光の花嫁」⑤

●「栄光の教会」という用語はエペソ書5章27節にしか使われていませんが、この思想は「栄化」の約束として他にもあります。例えば、

(1)【新改訳2017】ローマ人への手紙8章30節

神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。

(2)【新改訳2017】ピリピ人への手紙3章20～21節

20 しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

(3)【新改訳2017】Ⅰヨハネの手紙3章2節

愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

2.「子羊の婚礼」①

●このような栄化の約束が与えられているのですから、私たちは信仰をもって、御国の爆発的な喜びを歌うべきではないでしょうか。かつての讃美歌にはそのような歌がありました。しかし今日ではそうした歌が編集しなおされて、消えつつあるのです。

【新改訳2017】ヨハネの黙示録19章6～8節

6 また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、
激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。
「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。
7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。
子羊の婚礼の時が来て、花嫁は用意ができたのだから。
8 花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された。
その亜麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」

2.「子羊の婚礼」②

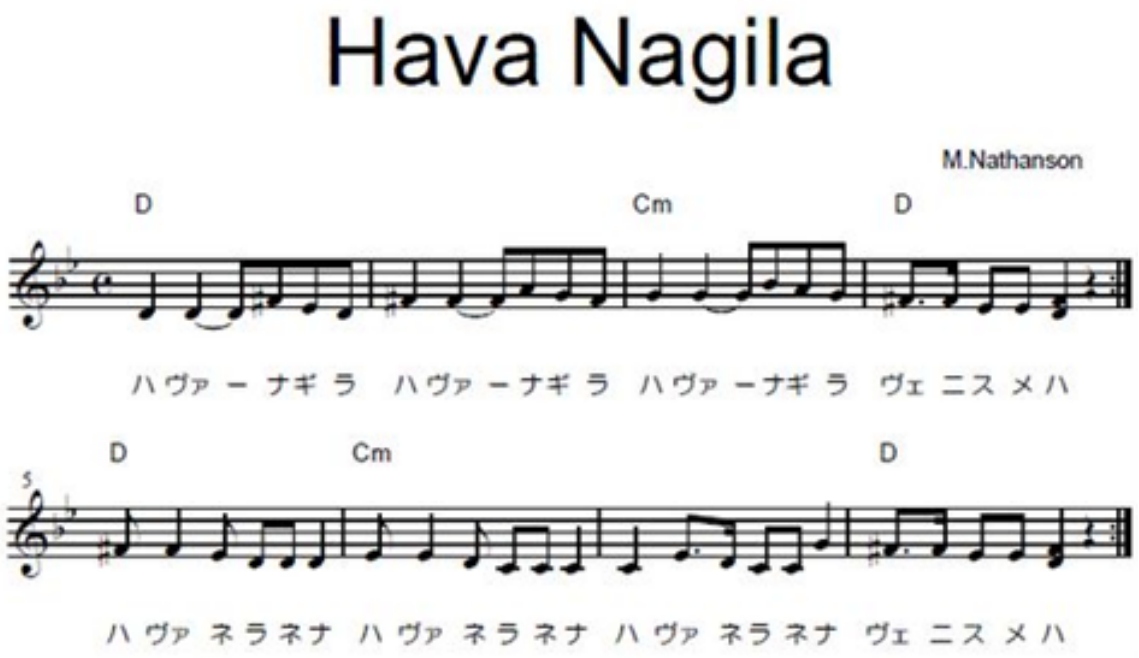
●今回のテーマ曲とした「メゴサレ」(Me Gozare)という賛美は、ヨハネの黙示録19章6～8節から作られています。7節は「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう」と訳されています。これをヘブル語にすると「さあ、喜ぼう、喜び踊ろう、私たちは神に栄光をささげよう」となっています。

カーヴォード	ロー	ヴェニッテナー	ヴェナーギーラー	ヴェニスメハー	レフー
כָּבוֹד	לוֹ	נִתְּנָה	וְנָגִילָה	וְנִשְׂמְחָה	לְכוּ
栄光を	彼に	ささげよう	喜び踊ろう	喜ぼう	さあ

●ここには「喜ぼう」という意味の「サーマハ」(שָׂמַח)と「喜び踊ろう」という意味の「ギール」(גִּיל)の二つの動詞があります。この二つが詩篇でセットで用いられているなら、御国を啓示する預言的賛美と考えることができます。

2.「子羊の婚礼」③

●ちなみに、イスラエルに「ハヴァ・ナーギーラー」という婚礼の時に歌われる有名な曲があります。その歌の歌詞には「喜び」を表わす三つの動詞が使われています。この曲の前半部分です。後半もありますが、割愛します。



2.「子羊の婚礼」④

(1) 小躍りして喜ぶ、歓声を上げることを意味する「ギール」(גִּיל)
(2) 喜び祝う、喜び楽しむことを意味する「サーマハ」(שָׂמַח)。
聖書の詩篇では「サーマハ」(שָׂמַח)と「ギール」(גִּיל)はしばしばワンセットで用いられます。
(3) 大声で喜び叫ぶ、声高らかに歌う、喜びの声を上げることを意味する「ラーナン」(רָנַן)

●黙示録19章に戻りますが、なぜ神に栄光をささげるのかと言えば、その理由は待ちに待った子羊の婚礼の時が来たからです。また花嫁もその用意ができたからです。

2.「子羊の婚礼」⑤

●「花嫁は用意ができた」とは、「花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された」ことを意味します。

●「花嫁は用意ができた」という部分をヘブル語に訳すと「ヒットカッダーシャー」(הִתְקַדָּשָׁה)です。これは「聖なるものとなる」という意味の「カーダシュ」(קָדַשׁ)の強意形のヒットパエル態で、「自らを聖別する、自らきよめる」という意味です。つまり花婿のために取り分けられた歩みを花嫁が自らしてきたことを意味します。まさに花婿のものとして自分を「聖別する」生き方を主体的に、自覚的にしてきたことを意味します。このことを「花嫁は用意ができた」と表現しているのです。

2.「子羊の婚礼」⑥

●みことばと御霊の助けを通して、花嫁は花婿のものとなるためにすべてのことをしてきたのです。それゆえ花嫁は輝くきよい亜麻布をまとうことが許された（=「着るようにと(花婿から)与えられた」)のです。なぜなら、その「輝くきよい亜麻布」とは「聖徒たちの正しい行い」のことだからです。花婿の心を求め続け、慕い求め続けてきた花嫁の行いが、輝くきよい亜麻布を着ることを得させたのです。

●すべての主権は花婿にあります。花婿であるキリストは花嫁である教会を愛して、ご自身を献げ、最高のぶどう酒(ご自身の血)をもって婚約しました。その花嫁をみことばと水の洗いをもってきよめて聖なるものとし、やがて、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるのです。それゆえ、以下のとおりです。

2.「子羊の婚礼」⑦

【新改訳2017】ユダの手紙 24～25節

24 あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、
大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、
25 私たちの救い主である唯一の神に、私たちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、支配、権威が、永遠の昔も今も、世々限りなくありますように。アーメン。

●「大水もその愛を消すことができません。奔流もそれを押し流すことができません。」(雅歌8:7)とあるように、神によって定められた花婿と花嫁の愛はどのような大水も奔流も、これを押し流したりすることはできないのです。神のご計画は決してぶれることなく、確実に、完成するのです。

今回のまとめ(感謝=「トーダー」תּוֹדָה)

●八日間にわたる 1st「セレブレイト・ハヌッカー」の祭りを共に集まり、共に過ごし、共にみことばを分かち合うことができたことを主に感謝したいと思います。アシュレークラスのような地道な学びがなければ、このような祭りはできなかったと思います。

●こうした集まりから Hebrew Midrashする者たちが少しずつ増えてくることは喜びです。みことばに沈潜し、みことばを掘り下げる者たちによって、キリストの花嫁は祝福された最強の存在となって行くと信じます。ストイケイアという「宿営」から出て、ただイェシュアのために、様々な領域においてパイオニア的スピリットを発揮する者たちが起こされていくことを祈り求めます。三一の神の恵みが、この祭りに参加してくださった方々の霊の中に豊かにありますように。